

製品名: AKAP 149 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06721**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	90kDa

抗原情報

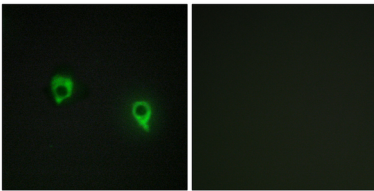
遺伝子名	AKAP1 AKAP1; AKAP149; PRKA1; A-kinase anchor protein 1; mitochondrial; A-kinase anchor protein
別名	149 kDa; AKAP 149; Dual specificity A-kinase-anchoring protein 1; D-AKAP-1; Protein kinase A-anchoring protein 1; PRKA1; Spermatid A-kinase anchor prot
遺伝子 ID	8165.0
SwissProt ID	Q92667
免疫原	抗血清はヒト AKAP1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 281-330

背景

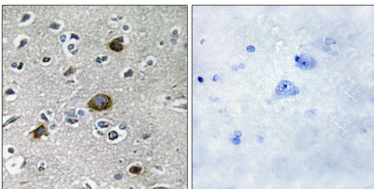
Aキナーゼアンカータンパク質 (AKAP) は、構造的に多様なタンパク質群であり、共通の機能としてプロテインキナーゼ A (PKA) の調節サブユニットに結合し、ホロ酵素を細胞内の特定の場所に固定する。この遺伝子は AKAP ファミリーのメンバーをコードしている。コードされているタンパク質は、PKA の I 型および II 型調節サブユニットに結合し、それらをミトコンドリアに固定する。このタンパク質は、cAMP 依存性シグナル伝達経路に関与し、RNA を特定の細胞内区画に誘導すると考えられている。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],ドメイン: RII- α 結合部位は両親媒性ヘリックスを形成すると予測され、R サブユニット二量体の相補的な表面とタンパク質間相互作用に関与する可能性がある。、機能: プロテインキナーゼ A の I 型および II 型調節サブユニットに結合し、ミトコンドリア外膜の細胞質面にそれらを固定する。、類似性: 1 つの KH ドメインを含む。、類似性: 1 つの Tudor ドメインを含む。、組織特異性: AKAP149 は前立腺と小腸で高発現しているのに対し、S-AKAP84 は腎臓、膵臓、肝臓、肺、脳で発現している。AKAP149 は結腸癌でも発現している。、

研究分野

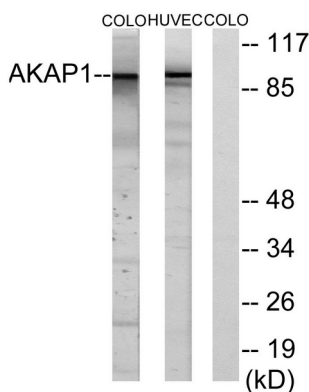
画像データ



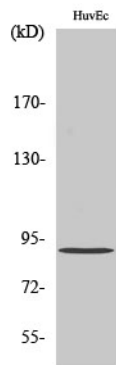
AKAP1 抗体を用いた COS7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



AKAP1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



AKAP1 抗体を用いた HUVEC および COLO 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



AKAP 149 ポリクローナル抗体を 1: 2000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。